第３回　萩前・一本木遺跡現地説明会

平成 24 年 5 月 26 日（土）

第 14 調査区全景（南から）

高松市教育委員会

調査の成果

今回の調査では，古墳時代後期の首長居館と考えられる遺構を確認しました。香川県下では，初めての発見です。

見つかったのは，方形に区画すると想定される溝の南西コーナーです。南辺 30m 以上，西辺 20m 以上，幅約 2 m，深さ約 1.7m の規模があります。溝は V 字形に掘削され，基盤層である礫層を破って掘削されていることから，多量の労働力が投入されていると考えられます。

①時代が古墳時代後期，②方形に区画すると想定される溝，③区画内に居住施設がある，④通常より深く溝が掘削されており防御的である，⑤区画溝から約 30 ～ 50m の距離をおいて竪穴建物が取り囲んでおり，一般の集落構造とは大きく異なることから，周辺を支配した首長の居館の一部であると推定されます。

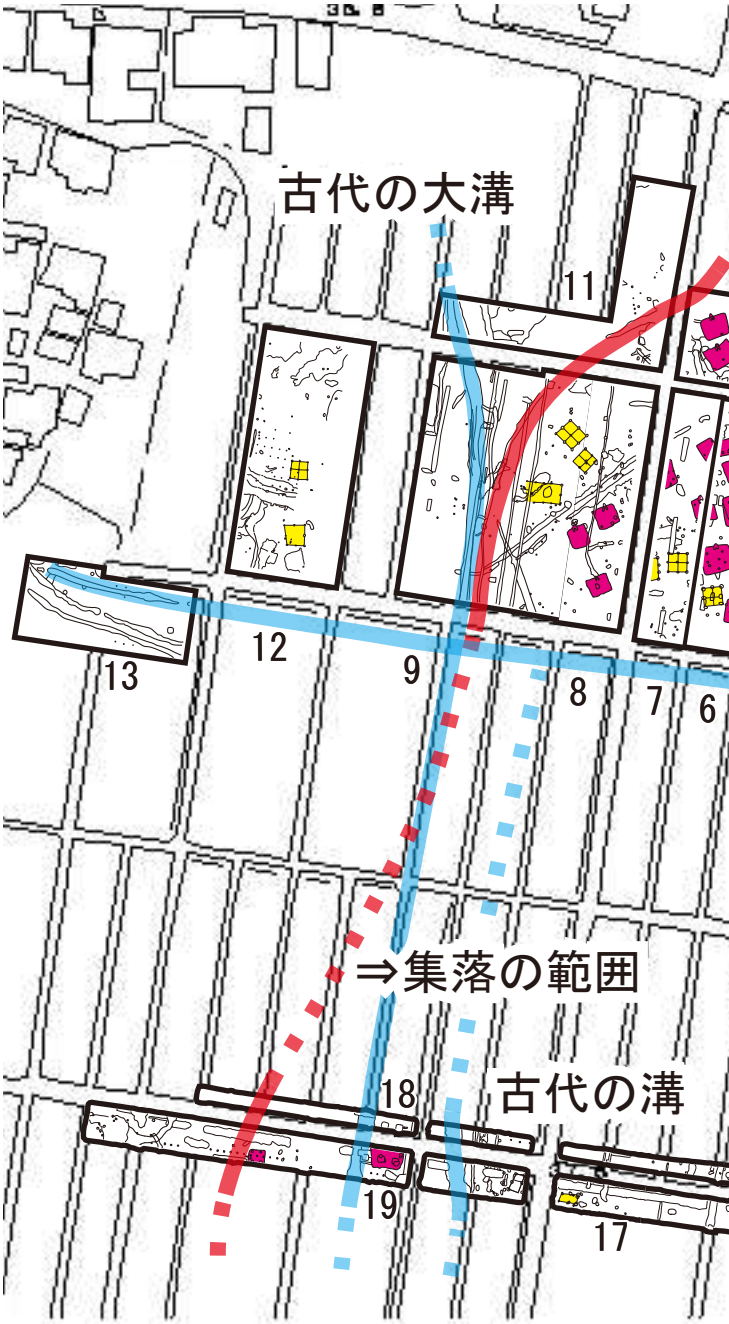
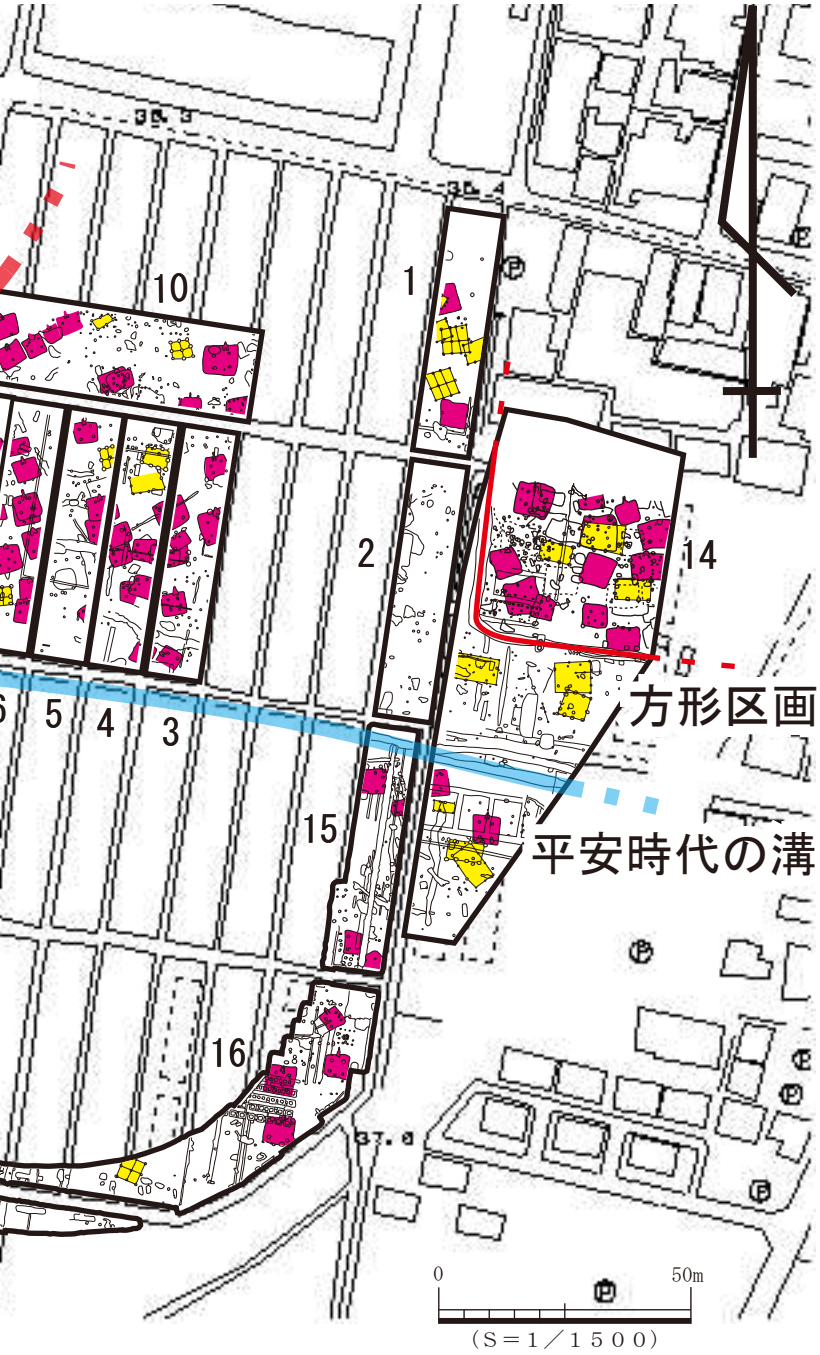


写真１　南北溝断面（南から）

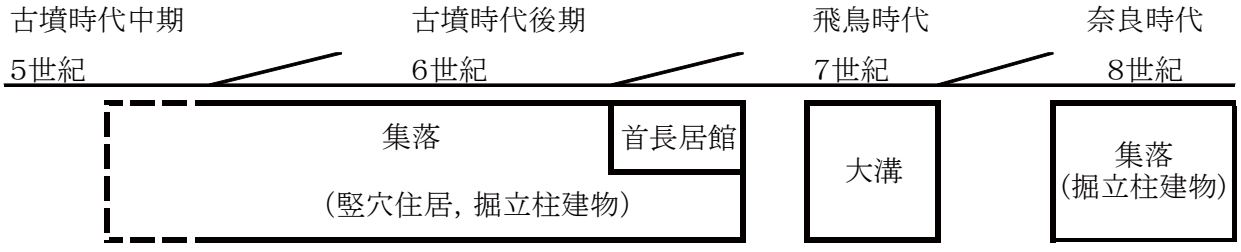
写真２　竪穴建物　竈掘削状況（北西から）



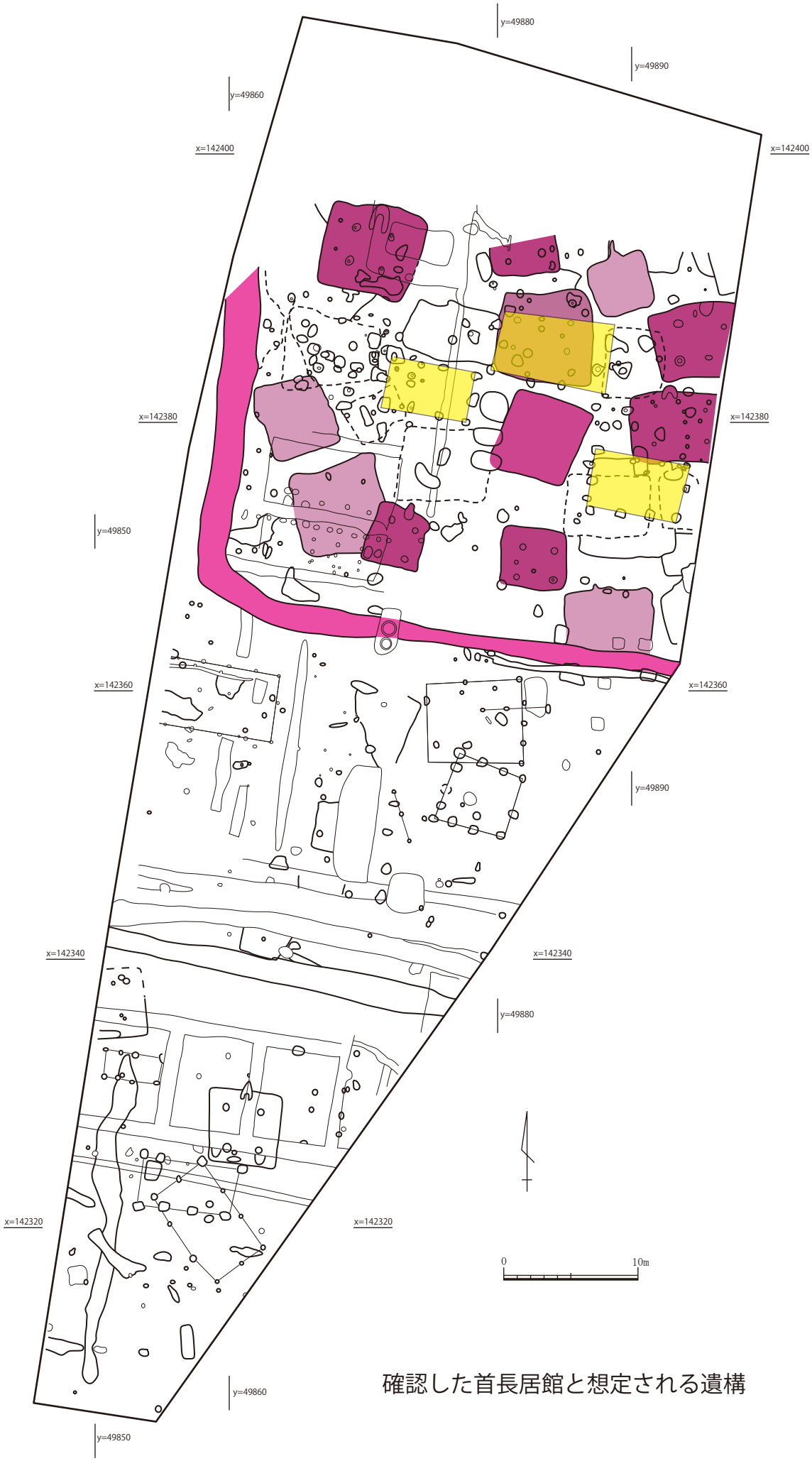
今後について

これまでの発掘調査の成果から，古墳時代中期～奈良時代にかけての大規模な集落が展開していたことが明らかになっていましたが，今回の調査で集落の中心となる古墳時代後期の首長居館の存在も確認することができました。

調査が進捗することによって，この地域の歴史を知るうえで，重要な知見が得られたことになります。今後も調査を進め，萩前・一本木遺跡の集落の広がりや当時の生活状況などについて，解明を行っていきます。



萩前・一本木遺跡　時代変遷



確認した首長居館と想定される遺構